

- ・ エッセイ…… 1
- ・ あおぞら自然あそび…… 1
- ・ 共働舎とんぼガーデン…… 2
- ・ かさまの杜保育園…… 3
- ・ リコー自然教室…… 3
- ・ 横浜市私立幼稚園協会 緑支部…… 3
- ・ 田んぼから—八十八夜の別れ霜—…… 4
- ・ コーヒーとともにページをめくるひととき『鳥のよ
うに、川のように』… 4
- ・ そのほか・あれこれ…… 4

夏は来ぬ 先日、「里山コンサート」というものに行ってきた。「ふるさと」「春の小川」「赤とんぼ」など里山の情景が浮かぶような歌15曲が、ソプラノ、ピアノ、バイオリン、踊りで披露され、合間にはコンサートの企画者でもある樋口広芳氏（東京大学大学院教授:保全生物学・生態学・鳥類学）のお話とスライドで里山の生きものたちが紹介された◆私は5月頃になると「夏は来ぬ」の歌詞が待ち遠しい。「卯の花のにおう垣根に ほととぎす 早も来鳴きて 忍び音もらす夏は来ぬ」◆卯の花はウツギ(右写真)、ホトギスはこの時期に渡ってくる夏鳥で、その鳴き声は「特許許可局」と聞きなされる。忍び音とはその時期最初のホトギスの声のことで、昔は競ってこの声を聞いたのだとか◆卯の花が咲いてホトギスが鳴けば、田植えです。こうした情景がいつまでも目に浮かぶよう、若い世代に歌と共に、そんな風景をも残し伝えていきたいと思いながら、ゆったりと楽しんだコンサートだった。



「季節の花 300」より
<http://www.hana300.com>

★あおぞら自然あそび★NPO法人横浜こどものひろばさんが企画制作した「あおぞら自然あそび」を担当しました(主催:よこはまアーツ・イン・コミュニティ実行委員会)。今回はおとなが対象。自然あそび体験に**0歳～3歳の子どもとその保護者**を誘うことができるようになろう！と志す人たちです。ですので、そんなおとなと小さな子どもたち（多くが親子）が集まって、身近



洞の中はどんなだろう



長い時間木とふれあっていた親子

な自然の中でゆったりとんびり過ごし、何かしらのヒントを持ち帰っていただけるようにと、内容を考えました。

2回それぞれ別の参加者、別の会場で行い、1回目は2月25日にこども自然公園（横浜市旭区）、2回目は翌26日に三ツ池公園（同 鶴見区）で行いました。

実施にあたって最も大切にしたのは、「親子で同じ目線で同じ体験をして、共感しよう」ということでした。子どもが遊んでいるのを親が見ているのではなく、一緒に遊ぶ。一緒に楽しむ。そして親が子に、子が親に共感する。そこからどんな気持ちや関係が生まれてくるのでしょうか。

落ち葉をずんずんめくっていくと何が出てくるかな？と夢中になったり、シャワーのように降らせたり、おとなも子どもも大はしゃぎ！松葉と落ち葉で作った風車は子どもの方が得意♪おとなは悔しそう。

そして、親子でぎゅっと抱っこしたら木の所へ行って、同じように思いっきり抱きついたり耳を当てたり見つめたりしました。

おとなも子どもも、とにかく体と心と五感で理屈抜きに好



落ち葉の下から緑の芽が！



落ち葉に抱かれて気持ちいい～い

きなように、いっぱい自然と遊んでほしい！と考えました。

最後にはレイチェル・カーソンの『センス・オブ・ワンダー』の一節を読み上げ、おとなの皆さんへのメッセージとしました。

そして、自然とふれあうって、簡単なことなんだな、楽しいんだな、よしやってみよう！と1人でも多くの人に感じてもらえれば嬉しいです。

なお、同NPOの中の「横浜ひがし・おやこ劇場」さんからも依頼を受け、3月1日に岸根公園(横浜市港北区)にて同じ会を実施しました。



アンケートより:いつも身近にある葉や土や木や石や空を感じ、じわ~っと温もりを感じました▼子どもたちは木の穴を一生懸命のぞき込んだり、松ぼっくりを探したり、とても楽しそうでした▼普段、子どもの目線になって一緒に遊ぶ事が少ないのを実感しました。一緒に見て、触って、とても楽しい時間でした▼空を見上げること、大きな木に触れること、身近な自然を楽しみたいと思います▼母としてもとても心がすっきりする心地よい時間になりました (一部抜粋)

☆内容の立案にあたっては一般社団法人遊心代表 峯岸由美子さん、NPO法人こどもの広場もみの木 尾上陽子さん、戸塚区地域子育て支援拠点「とつとの芽」のみなさん、小さな子どもを持つ私の友人たちから多くの示唆をいただきました。どうもありがとうございました！

★共働舎とんぼガーデン★知的障がい者の障害福祉サービス事業所 共働舎(横浜市泉区)でのビオトープ観察会。利用者の方、職員の方と「冬の観察会」を実施しました(2月19日)。

2月とはいえ、まだまだ寒いので、屋外の活動と室内の活動を両方取り入れました。今回は、担当職員の方からのアイデアをもとに、「みんなのとんぼガーデン」を大き



じゃーん！生きものの楽園！

な紙(模造紙2枚分)に描いていきました。

背景は予め描き、トンボ、ヤゴ、メダカなどの白黒の絵を切り抜いて多数用意し、それに各自が好きな色を塗って、絵の中の好きな所にのりで貼っていきました。さらに、ビオトープ周辺で「気に入った自然の物」を各自が1つ拾ってきておいたので、それも貼り込みました。

皆さんの笑顔をお見せできないのが残念なくらい、とっても楽しそうでしたよ。1年間のまとめとしても、よかったですと思います。こういう積み重ねが大事なんですよね。

5月2日は「スプリングフェスティバル」にて、来場者にビオトープの案内をしました。老若男女、いろんな人が訪れ、思い思いに楽しんでいかれました。水辺のメダカにい

やされ、くつろぐ女性。トカゲを追いかけたり、顕微鏡のヤゴに夢中の子ども。ヤゴを捕まえるのがとても上手なお父さんもいましたよ。

ビオトープは生きものだけではなく、人も集まる場だなあと感じた1日でした。

☆共働舎ビオトープ事業は「人と自然の研究所」と協働展開しています
☆



カラフルなメダカもスイスイ♪



できた絵を囲んでみんなでワイワイ



職員の方が玄関に掲示しました



ヤゴの抜け殻を一心にスケッチ



お母さんとお話、子どもは顕微鏡♪

★かさまの杜保育園★横浜市栄区のかさまの杜保育園では今年度、ビオトープのお手入れをあおぞら自然共育舎で請け負うことになりました。

4月下旬、1回目のお手入れを実施。増えすぎたマコモを抜いたり、刈ったり、岸辺の柳を剪定したり。お手入れの大前提は「生きものの視点で考える」です。ですので、例えばどこのマコモを抜いてどこのマコモを残すのか、すべて生きものに配慮した理由があります。

抜いたマコモの根本にはクロスジギンヤンマのヤゴがいました！園児と一緒に大喜び！もう羽化が間近だったのでとても大きくて立派でした♪昨年、産卵を見ていたので、無事に育ってくれて嬉しかったです。

終了後は写真入りのレポートを提出。どんな管理をどんな理由でやったのか、どんな発見があったか、などを園の皆さんと共有するツールにしたいと考えています。



お手入れ前



お手入れ後

★リコー自然教室★有限会社カルティベイトカンパニー 人と自然の研究所さんが株式会社リコーさんから依頼されている「リコー自然教室」に、7・8・11月に続いて補助スタッフとして関わりました(2月6日)。これはリコーさんが社員教育の一環として実施しているものです。

今回は港区青山(←あのオシャレな！)の青山小学校がフィールドです。2009年度の自然教室を受講した環境ボランティアリーダーを対象にした、自然教室・実践編です(共催:青山商店会連合会/港区立青山小学校)。環境ボランティアリーダーとして、都会や街中でどのように

実践したら良いのかということ、一人ひとりの課題でもありますが、そのヒントになるようにとこの小学校で小学生や先生方と一緒に水辺ビオトープを作る、というのが今回の内容でした。

社員の皆さんもだんだんと子どもたちと打ち解けてきて、頼もしくリードしていました。きっとそれぞれの地域でこの経験が活かせることでしょう！

もっと詳しい様子がリコー環境ポータルサイト ガイアアイでご覧になれます。とても楽しそうですよ！また、ビオトープのその後のレポートもあり、やって来た生きもののことも書かれています。

<http://www.gaiia.jp>

★横浜市私立幼稚園協会緑支部★横浜市緑区内の幼稚園の先生方を対象に「感性を育てよう。あなたに何かを感じてほしい～ネイチャーゲームを通して心豊かに」という研修会がながった幼稚園を会場に開催され、講師の1人を務めました(4月27日)。当日は雨の降る天気でしたが、前半はホールで、後半は幼稚園の裏山をフィールドに実施。ホールでは<はじめまして>という、自己紹介を兼ねて色々な人と自然に関わる話をしていくアクティビティ、外では<音いくつ>で周りの音に耳を澄ませたあと、<フィールドビンゴ>で五感をフルに使った発見を楽しみました。雨の中、カッパを着て森を歩く、ということは普通はなかなかしませんよね。多分、それぞれが様々なことを感じたことと思います。

フカフカした苔に触ったり、落ち葉からのぞくドングリや、石をどかしてアリを見つけたり。サヤサヤと風の音も聞こえてきました。

毎日、小さな子どもたちと向き合う幼稚園の先生たち。園に帰り、家に帰って、この日の小さな自然体験が皆さんの心に何かを落としていってくれていたらいいなと思います。



子どもたちと一緒に植物を植える



さてどんな生きものが来るかな？

★田んぼから～八十八夜の別れ霜★

今年はこの言葉を実感する春となりました。4月は本当に寒暖の差が激しく、毎日ジェットコースターに乗っているよう。田んぼでは4月初めに苗代に種籾を蒔きましたが、生育が遅れ、田植えシーズンの開始を1週間延ばす事態となりました。5月2日が八十八夜。ようやくこの頃から天候が安定し、4月の悪天候を取り戻すかのように、晴天続きとなったのでした。また、初夏の夜を光で彩るゲンジボタルは、ソメイヨシノが散り、八重桜が咲く頃に水辺から上陸して土の中で蛹になりますが、今年は上陸の頃の気候が不安定だったので、発生が遅れたり、少なかったりということになるのではと感じています。



蒔いて約1ヵ月後(左)。右は06年の約1ヵ月後の様子。



コーヒーとともにページをめくるひとときその10

長倉洋海「鳥のように、川のように 森の哲人アユトンとの旅」徳間文庫、2009

私の好きな写真家の長倉洋海さんが、ブラジル先住民アユトンとの旅を、写真と文章でつづった作品。長倉さんは、「押し寄せる開発の波」の中でインディオたちがどう生きているのか、ある種の理想を描いていたが、旅をする中でその気持ちが様々な形で打ち砕かれる。失望しかけていた時にアユトンと出会い、共に各地の先住民の村々を旅することになった★単にインディオを理想化することなく、知ったかぶりのない、その時々での素直な著者の気持ちが書かれていて、心が洗われる。私はこうした率直な人が好きだ★アユトンが様々な場面で語る言葉には、「幸せとは何か」を考えさせられる。

★そのほか・あれこれ★



5月5日端午の節句に、しょうぶ湯を楽しみました。美しい花の咲くしょうぶではなく、葉から良い香りがします。ピオトープにも植えることがあります。



3月下旬から4月前半にかけての里山は見逃せない！1日1日、刻々とその色合いを微妙に変化させていく。私は1年中でこの時期の山の色が一番好き。
左：舞岡公園、右：座間谷戸山公園



共働舎さんの陶芸体験会で作ったコーヒーカップ！。毎日使っています♪

〇〇お知らせ〇〇「あおぞら通信」が(株)榎澤電機製作所様のご好意で、同社の関連HP「パン屋さんよろず相談所」の一角にNo.1から掲載されています。よろしければどうぞご覧ください！ <http://www.kusizawa.com/>

★自己紹介★私は、里山型公園のスタッフとして自然の保全や体験活動などに携わる一方、フリーランス(あおぞら自然共育舎)で自然体験・再生・創出の仕事をしています。「体験による気づき」を大切にすることが信条。★この通信では仕事内容の報告や、日常で自然とのふれあいを楽しむヒントなどもお伝えできたらなあと思っています。ご家族やお友達との回し読み歓迎！ ☆ネイチャーゲームインストラクター・ピオトープ管理士・人と自然の研究所客員研究員 ☆横浜市戸塚区在住、1963年6月生まれ。



仕事の相談、感想はこちらまでお気軽に！ → hiromi-h@river.dti.ne.jp 早川広美 (あおぞら自然共育舎)